

2013年1月31日

報道各位

住友金属鉱山株式会社

インドネシアでのニッケルHPALプラント建設に関する  
プレ・フィージビリティ・スタディ実施および環境影響分析調査開始について

住友金属鉱山株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：家守伸正）は、当社が出資するインドネシアのPTヴァーレインドネシア（PT Vale Indonesia Tbk.、本社：ジャカルタ、以下「PTVI」）と、インドネシアでのHPAL技術（High Pressure Acid Leaching＝高圧硫酸浸出）を用いたニッケル精錬プラント建設計画（以下「本計画」）の可否に関するプレ・フィージビリティ・スタディ（事前事業化調査）を共同で実施していますが、この度、これと並行して、インドネシア政府の定める規則にしたがって公告を行い、環境影響分析調査を開始しました。

PTVIは、インドネシア南東スラウェシ州コラカ市ポマラ地区にニッケル鉱山の採掘権を保有しており、新たに鉱山開発および精錬所建設を計画しています。

当社は、これら計画のうち、採掘される低品位ニッケル酸化鉱からHPAL技術によってニッケルおよびコバルトを回収する精錬プラント建設の可否を検討するためのプレ・フィージビリティ・スタディに参加しています。

当社は、HPAL法によるニッケル低品位酸化鉱の処理ではフィリピン共和国のコーラルベイ・ニッケル・コーポレーション（Coral Bay Nickel Corporation、本社：パラワン島リオツバ、社長：藤村隆則）にて、世界の各社に先駆けてニッケル中間製品の商業生産を成功させた実績を有しています。また、当社は1988年からPTVIに資本参加し、電気ニッケルの原料となるニッケルマットを確保しています。本計画が事業化に至った場合は、共同出資により新たに設立する新会社で、当社が操業パートナーとなってHPAL技術を用いたプラントの建設および運営を行うことを想定しています。

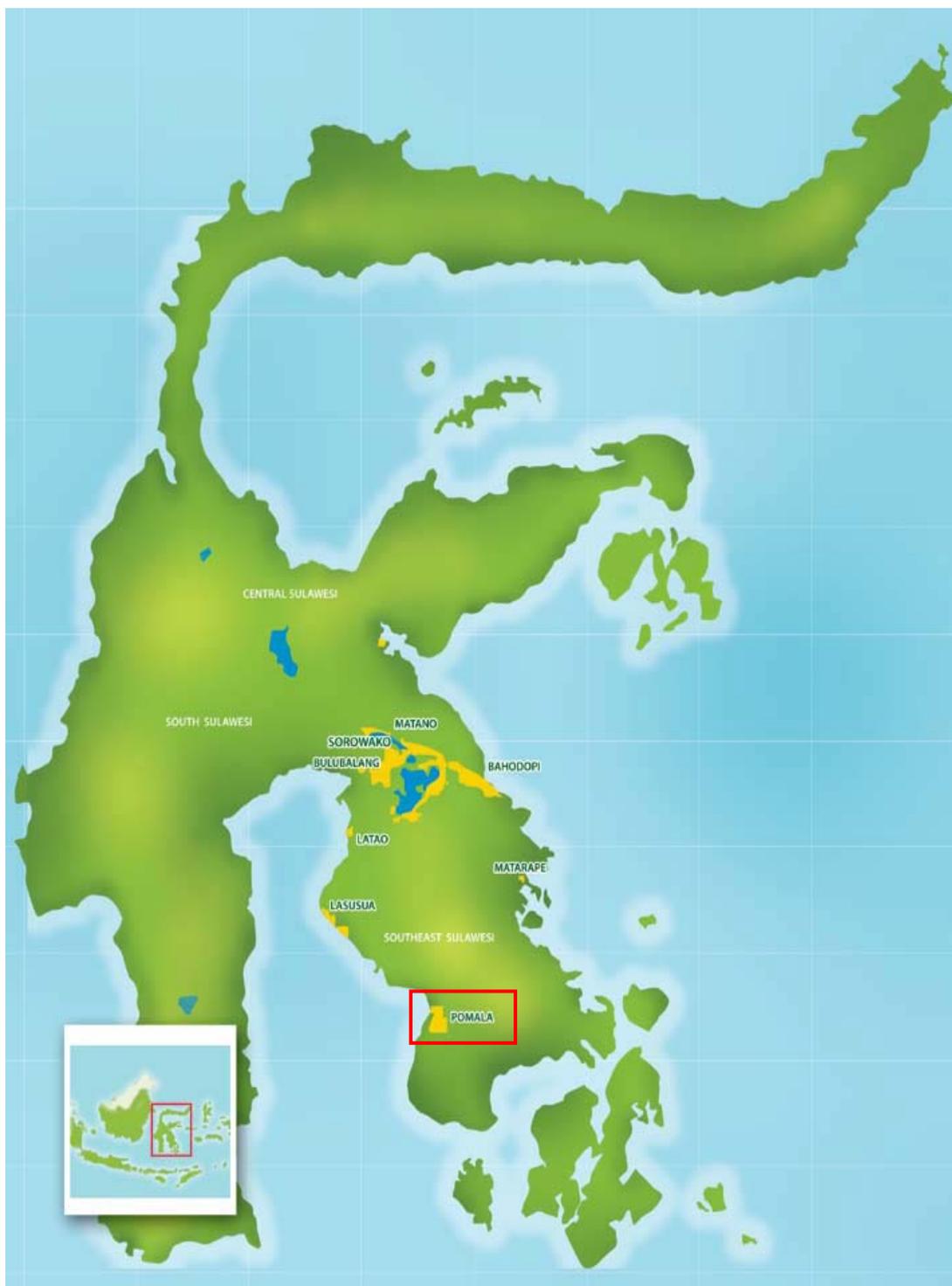
当社といたしましては、本計画が2009年中期経営計画で長期ビジョンとして掲げた「ニッケル15万トン体制」の実現に寄与することを期待しています。

（参考）

1. PTヴァーレインドネシアの概要

- |         |  |
|---------|--|
| 1) 商号   | PT Vale Indonesia Tbk.（インドネシア法人、本社ジャカルタ）               |
| 2) 代表者  | Nicolaas D.Kanter                                      |
| 3) 事業内容 | ニッケル鉱石の採掘およびニッケルの製錬（当社のニッケルマット購入先であるソロワコ鉱山を経営）         |
| 4) 資本金  | 1億3641万USドル  |
| 5) 株主   | Vale Canada Limited（59.28%）、住友金属鉱山（20.09%）、その他（20.63%） |

## 2. ポマラ地区の位置図



(本件に関するお問い合わせ先)

住友金属鉱山株式会社

広報IR部 高橋 雅史

TEL : 03-3436-7705

FAX : 03-3434-2215